

(参考様式4)

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	大和地区活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
宮崎県 新富町	4 5 0 0 0 6 4 5 4 0 2 8	1	H 2 7 ~ H 2 9	H 2 7
活性化計画の区域				
宮崎県 新富町 大和地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率 (%) B / A	備 考
定住等の促進に資する基盤整備の円滑化	2年	2年	100%	

(コメント)

目標達成のために、基盤整備事業の採択及び着手に向け、地元での合意形成を図りつつ、平成28年度に事業採択の申請を行い、平成29年度に事業採択及び着手する事ができた。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
地形図作成	地形図作成 A = 35ha		新富町
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
－	平成27年度	平成27年度	－
事業の効果			
基盤整備を行う区域内における調査・計画・換地作業及び施工に関する全ての部門にわたって基本となるべき地形図を作成する事ができ、基盤整備着手前の調査・計画・換地作業等が容易に遂行できた。			

3 総合評価

(コメント)

区域内の農業者及び農地所有者は勿論、地域広範囲にわたり住民及び担い手に基盤整備事業の取り組みが認知され、本計画に基づく事業採択及び着手に至った。

今後は、県営土地改良事業を計画に進める事で、担い手への農地集積につながり、農業生産性向上や経営規模拡大が推進され、定住等の促進も期待される。

4 第三者の意見

(コメント)

本事業の対象である新富町大和地区の水田地帯は、全く圃場整備がなされておらず、農道が狭小、かつ圃場区画が狭く、維持管理等に多大な労力と経費を費やしていた。また、農地の集約化に応えることができず、営農意欲の減退につながることが予想されるとともに、既に耕作放棄地に近い状態の農地が点在している。このような中、本事業により、調査・計画・換地作業及び施工に関して基本となる地形図を作成したことで、基盤整備着手に際しての調査・計画、換地作業等を容易に進めることができた。今後、県営土地改良事業を計画的に進めることで担い手への農地集積と農業生産性の向上、規模拡大が推進され、本地区における営農意欲の向上と定住促進が期待される。

(宮崎大学農学部教授 山本直之)